

■ 山の下閘門排水機場

海拔ゼロメートル地帯が広がる東新潟地域を流れている通船川や栗ノ木川流域では、昭和39年の新潟地震により甚大な浸水被害がありました。災害復旧にあたっては、被災地域の発展と災害の再発防止の観点から、それまでの「築堤方式」ではなく、河川水位を人工的に下げる「低水路方式」を採用し、山の下閘門排水機場と津島屋閘門排水機場の整備を行い、昭和42年から運用しています。

その後、平成10年の水害を受け、平成15年に新排水機場の増設が完了し、排水機場の能力は21.6m³/sから51.6m³/sへ増強され、現在の姿となっています。



- 排水機場では、排水ポンプを常時運転し、通船川を信濃川より約2m低い水位に保つとともに、水位差のある河川の間を船舶が通航できるよう併設した、閘門の開閉を行っています。



排水ポンプ



閘門の開閉

- かつて閘門は、新潟西港から通船川の中流にある県営貯木場へ輸入木材を運ぶ、曳き船(ひきぶね)と筏(いかだ)が通航していました。



通航する曳き船と筏

詳しくは

山の下閘門排水機場



- 排水機場は新潟市の東区と中央区の境界に位置し、敷地内には境界標と境界の路面標示があります。



境界標と境界の路面標示

■ 福島潟放水路

福島潟放水路は、福島潟の水位が高くなったときに洪水を福島潟から分水し、新潟東港を経由して日本海に放流するために開削した、幅約100m、長さ約6.7kmの河川で、平成15年に完成・通水しました。

放水路沿川の地下水水位低下による井戸枯れを防ぐために、通常時は水位を+0.7mに保つ必要があります。

このため、下流部には海水の遡上を防ぐための堰(豊栄潮止堰)を、上流部には福島潟への逆流を防ぐための堰(椋堰)を設置し、水位調節は放水路と交差している新発田川の下流の水門(浦ノ入水門)を操作して行なっています。潟の水位が高くなったときは、豊栄潮止堰を倒伏させて放水路内の水位を下げ、椋堰を倒伏させて洪水を流します。



● 施設見学

様々な団体の見学を事前申込みにより受付しています。



山の下閘門排水機場



福島潟放水路

詳しくは

山の下閘門排水機場
福島潟放水路



● 施設カード

「施設の役割」や「ひとこと自慢」などの情報を記載した『施設カード』をそれぞれの管理棟で配布しています。



山の下閘門排水機場



福島潟放水路

詳しくは

新潟県 施設カード

